

gaisen
carte
がいせん

崖線

ア・ラ・カルト

崖線見

崖線のお散歩を、さらにもうちょっとだけ面白くするための「小ネタ」を集めてみました。



隠れた

世田谷の崖線自慢

- 岡本3丁目の富士見坂は、車道では世田谷一の急坂である。



岡本の富士見坂は武蔵野台地の先端に位置し、国分寺崖線にある急な坂道で、富士山を眺めるには絶好の場所である。

昔は馬車が登れなかったという勾配22%の急坂である。

- 荒玉水道道路は、世田谷で一番長い直線道路である。

砧浄水場から杉並区の梅里付近まで、ほぼ9kmの直線の道路である。

なぜ直線かというと、道路の下に太さ直径約1mの水道管が埋められているからである。

- 崖線には、巨木がいっぱい。



浄真寺のカヤノキ

九品仏浄真寺のカヤノキをはじめ、区内に存在する東京都指定天然記念物の巨木5本のうち、なんと4本が崖線上にある。浄真寺のカヤノキは、樹齢700年といわれ、樹勢が盛んで実もたくさんつける。都内最大級のカヤノキである。ちなみに、崖線以外のもう1本は、桜小学校のオオアカガシである。

古い建物を見つけたら (近代建築の見分け方)

散歩中にふと出会う趣のある建築。崖線沿いにも多く現存する近代建築は、こんなところに着目すると面白い。

- 波打った窓ガラス

外から眺めて窓ガラスが波打っているようなら昭和30年代以前の建物である可能性が高い。大量生産で作られる現在のガラスとはまた違った趣。瀬田四丁目旧小坂緑地の旧小坂家住宅でも見ることができる。



- 個性が光る「換気口」

もともと天井裏の空気調整のために設けられていた「換気口」はデザインもいろいろで、見比べるとおもしろい。意匠として飾りだけつけられているものもある。

- 門柱や外構に大谷石

古くからあるお屋敷の門柱や外構には大谷石が使われていることが多い。ちなみに、おもいはせの路のサインにも街並みに合わせ大谷石が使われている。



? 坂の名前から知る崖線

- 行火坂の由来はなに?

あんかざか

勾配が急なため、この坂を登るだけで体が熱くなるので「行火坂」と呼んでいた。別名「行善寺坂」ともいい、当時はこの急な坂を下り、調布橋を渡り、二子の渡しに行ったそうだ。



- お茶屋坂の茶屋ってどんなの?

江戸時代の始め頃、この地を治めていた旗本喜多見重勝が眺めの良い坂の上に茶室を建てて、喜多見の里から多摩川や富士山の姿を楽しんだと言われている。

- 不動坂の由来はなに?

成城から喜多見不動に降りる不動坂。由来はこの喜多見不動にちなんだもの。昔ながらの切り通しの面影がある。

- 「寮の坂」の寮って何寮なの?

答は尼さんの寮。伝乗寺の尼さん達の住んでいた寮があったことから名付けられたそうである。

! 崖線ならではの生きもの

豊かな自然環境そのままに、さまざまな動植物が共存する崖線は「生きものつながる世田谷プラン」に位置づけられており、次世代に引き継ぐことが大切。サワガニやゲンジボタル、イチリンソウやキンランなど、ちょっと目を凝らして散策すると、近頃の都会ではめずらしい生きものと出会う。

- ドングリとカブトムシ

世田谷の崖線上で見られるドングリは10種類ほど。ちなみにカブトムシの幼虫は、コナラやクヌギの落ち葉でできた腐葉土の下で育ち、初夏になると成虫となって樹液を吸う。足元にこんなドングリが落ちていたら、夏にはその周りでカブトムシと出会うかも。



コナラのどんぐり



クヌギのどんぐり



カブトムシ

- オオタカ、オニヤンマ、ゲンジボタル

これらは、国分寺崖線に住むたくさんの生きものの中でも、特に自然の豊かさを象徴する生きものたち。大空を舞うオオタカを見つけたら、きっと崖線の凄さを実感できるであろう。



オオタカ



オニヤンマ



ゲンジボタル

! 崖線沿いには古墳が多い

多摩川沿いの崖線沿いには野毛大塚古墳や上野毛稲荷塚古墳、御岳山古墳など多くの古墳が点在する。太古の昔から川が人々の暮らしと密接に関係していたことや権力者が眠る地として眺望のいい場所が好まれたことが関係していると考えられる。

ちなみに静嘉堂文庫も元々は旧三菱財閥・岩崎家の廟所(墓所)として買いもとめられたところ。